**報道発表資料**

提供日：2020 年 3 月 25 日

提供時間：16 時 30 分

南東北グループ
一般財団法人　脳神経疾患研究所

# 民間病院で世界初。　次世代の放射線がん治療法 BNCT（ホウ素中性子捕捉療法）による治療 実現へ

南東北グループの一般財団法人 脳神経疾患研究所（理事長・渡邉一夫。以下「当財団」）が郡山市に開設した南東北 BNCT 研究センター（以下「当センター」）に導入されている加速器（サイクロトロン）を用いたホウ素中性子捕捉療法（以下「BNCT」）の機器（住友重機械工業株式会社）及び薬剤（ステラファーマ株式会社）が、厚生労働省より本日（令和 2 年 3 月 25 日）認可されました。
（※機器につきましては、令和 2 年 3 月 11 日認可）

病院併設型のBNCT装置を世界で初めて導入し、民間医療機関として世界で初めて治療を行います。ＢＮＣＴは、エネルギーの低い中性子とがん細胞・組織に集積するホウ素化合物の反応を利用して、がん細胞をピンポイントで破壊する粒子線治療のひとつで正常な細胞への影響を極力抑えることができ、身体への負担が少なくて済む「体にやさしいがん治療」です。　また、頭頸部がんについて、これまで既存の放射線治療や外科手術では治すことが難しかった局所再発がんや局所進行がんにも有効とされ、〝次世代の放射線がん治療法〟として注目されています。当面は首から上の頭頸部がんの治療が中心となりますが、将来的には治療できる部位がさらに広がることが期待されています。

当センターは、2015（平成 27）年 11 月に開設し、2016（平成 28）年 2 月より「医療関連産業集積プロジェクト補助事業」として BNCT の臨床試験を行ってきました。この事業は、東日本大震災での地震、津波被害に加え、原子力発電所の事故により甚大な被害を受けた福島県の復興計画重点プロジェクトのひとつに認定されており、当財団が補助金を受けて取り組んでいます。また、この事業には、医療技術・医療機器の輸出を担うという福島・日本発の世界に向けた「産業振興」の側面もあり、これまでにマレーシアのマハティール元首相、台湾の李登輝元総統をはじめ、海外の要人も視察に足を運ぶなど、世界からも注目を集めています。